

令和7年度の学校評価

本年度の 重点目標	・教育活動全体を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・生徒に学力の基礎・基本を習得させるとともに、主体的に学ぶ姿勢を育む。 ・キャリア教育の理念に立ち、生徒一人ひとりの進路実現に向け支援体制の充実を図る。 ・円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を維持する。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
広報活動 （総務部）	・戦略的な広報活動を展開する。 ・PTA活動を見直し、参加しやすい雰囲気作りを行う。	・中学生やその保護者の関心を高める学校案内を作成する。 ・学校説明会・体験入部の実施などにより、本校進学を志す中学生向けの広報活動を推進する。 ・PTA活動について、保護者の意見を取り入れ、無理の無い活動になるように配慮し、持続可能なPTA活動になるように工夫する。	・学校案内は、管理職と担当者等と報告・連絡・相談を行いながら作成する。また、写真の更新を行う。 ・学校案内と学校説明会を充実させ、HPも活用して、戦略的な広報活動を展開できるようにする。 ・PTA主催の活動を学校としてサポートする。例年通り行うのではなく、御意見を伺いながら活動の精選を行う。
授業の活性化 （教務部）	・生徒主体の授業実践を目指し、ICT活用も含めた授業改善に取り組む。 ・3年間を見通した指導計画に基づいて「総合的な探究の時間」を実施する。	・公開授業や研究授業の実施を推進し、授業改善に取り組む雰囲気を醸成する。 ・外部資源も活用しながら、生徒が自ら問いを見つけ探究する活動を支援する。	・生徒の実情に即した授業改善となるよう留意する。 ・外部の研修などを通して他校の情報も集め、優れた取り組みを積極的に取り入れる。
キャリア教育の推進 （進路指導部）	・情報収集と情報の整理（全学年） ・進路希望を叶える（3年） ・進路意識の醸成（1・2年）	・オープンキャンパス等の案内やLT、総合的な探究の時間を活用する。 ・進路講演会や進路別ガイダンスを通して情報を提供し、整理する。 ・模擬試験や学年と連携した特別講座等で実力を高める。	・LT、総合的な探究の時間を学年と相談しつつ計画的に活用する。 ・担任会、学年会、教科会、進路検討会等を活用し、教員間でも情報の整理や、情報交換を積極的に行う。 ・特別講座では積極的に成績上位層を伸ばしていく。
交通安全 （生徒指導部）	・時間や交通ルール、マナーに対する意識を高め、交通事故防止を図る。	・時間には余裕を持って行動できるよう集会等で伝える。 ・自転車利用五則を周知徹底させる。 ・安全委員の活動を通して安全に対する意識を高めさせる。 ・交通安全教室を通して、交通ルールの重要性や命の大切さを伝える。	・時間ギリギリで登校する生徒には積極的に声掛けをしていく。 ・配布資料を活用する。 ・安全委員の役割をしっかりと理解させて活動させる。 ・命をメインテーマにした内容を依頼する。
特別支援と美化活動 （保健部）	・特別な支援を必要とする生徒について、早期発見と支援を図る。 ・校内美化活動を推進する。	・健康調査結果から把握した健康課題に関して早期対応をする。 ・学年会・学年主任者会等で各学年の問題のある生徒について情報交換を図る。 ・相談担当の教員、担任、SCと情報交換し連携を図る。 ・校内で処理するごみの減量を進め、環境美化の意識を高める。	・早期に健康注意者リストを作成し関係する職員と情報共有する。 ・SCへの相談内容や生徒の状況に関係職員に連絡し、定期的に個別の支援対策会議を実施する。 ・年に数回、美化委員を使って、一斉清掃の範囲外の場所の美化活動を行う。
学校行事 （特別活動部）	・健康や安全に十分に配慮した、生徒が主体となって行える生徒会行事を企画する。 ・部活動時間を厳守させる。	・体育的行事は生徒の現状に合わせた内容になるよう考案する。 ・細部まで配慮した丁寧な文化祭の要項を作成する。 ・生徒会行事は、生徒が自らの手で作り上げていくことを理解させる。 ・生徒の役割分担を明確にする。 ・部活動の活動場所を巡回する。	・種目を見直したり、実施方法を工夫したりする。 ・留意点など、より具体的な内容にしていく。 ・機会あるごとに生徒に向けて、行事は自分たち自身で作り上げるよう自覚を促す。 ・巡回指導も適宜行っていく。 ・部顧問との連携を密にとっていく。

読書活動 (図書情報部)	・読書啓発（朝読の充実） ・学習活動・課外活動における図書館利用の活性化（調べ学習等） ・校務及び授業におけるＩＣＴの利活用	・図書委員を活用し、季節の「図書館イベント」を充実させ、生徒を図書館に呼び込む工夫をする。 ・情報通信技術支援員の協力を仰ぎ、「教職員向け研修」を充実させ、教職員全体のＩＣＴスキルの底上げを目指す。	・図書委員を活用し、季節の「図書館イベント」を実施し、生徒を図書館に呼び込む工夫をする。 ・授業での調べ学習などの図書館利用方法を紹介し、支援する。 ・職員研修ではＩＣＴ支援員と協同し、校務及び授業におけるＩＣＴの利活用を推進する。
基本的生活習慣の確立 (第１学年)	・豊高生として必要な基本的生活習慣を確立する。	・「朝読」指導を始めとして、授業規律の遵守や身の回りの整理整頓など落ち着いて学習に向かう環境を作る。 ・探究活動を通して、たくさんの「わかる」「できる」「面白い」の体験を積み、自身の将来につながるようなキャリア教育の基礎を作る。 ・行事への積極的な参加を促し、学校生活の楽しさを実感させる。	・集団行動を送る上で必要な、基本的なルールやマナーを守らせる。 ・課題の指示を的確に行い、自宅学習の習慣化を図る。 ・文理選択が適切に行えるように、進路意識を醸成する。 ・学年全体として、行事に積極的に取り組める環境を作る。
中心学年としての役割を果たす (第２学年)	・自らの進路意識を高め、進路目標を具体化する。 ・行事等において中心学年としての役割を果たす。	・適切な時期に必要な進路情報が得られるよう、生徒に情報収集の方法を示す。 ・探究活動を通して、１年次よりも進路や探究の価値を見出せるようにする。 ・行事におけるリーダーを育成し学年のけん引力とする。	・キャリア教育を実践するにあたり、視野を広げた選択を意識させるため、オープンキャンパスや進路ガイダンスなど外部の情報も活用させる。進路調べでは地方国公立にも視野を広げられるような取り組みを行う。 ・総合探究やＬＴの時間を利用して、修学旅行の事前学習や探究活動に取り組ませる際、生徒により適切な声かけができるようにする。
進路指導 (第３学年)	・自らが求める生き方を具体的にイメージさせ、その実現のために必要な進路を選択させる。 ・希望の進路を達成するための学習環境を整える。	・丁寧な個人面談を行い、一人一人の適性や希望を把握する。 ・主体的な進路選択に向けて進路ガイダンス等を実施し、適切な時期に必要な進路情報を提供できるようにする。 ・特別講座、模擬試験の重要性を理解させ、積極的に参加させる。	・総合的な探究の時間の活動を通して、自らが参画する社会についての具体的なイメージをもたせる。 ・生徒の進路先についての情報を収集し、合同ＬＴや面談を利用して生徒や保護者に的確に伝える。 ・多様な入試形態に対応できるように、進路指導部と連携を図る。
いじめ防止対策の推進 (いじめ不登校対策委員会)	・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 ・いじめの早期発見、適切な事案の対処に努める。	・集会等で、生徒が主体となっていじめの防止に努められるよう話をする。 ・いじめの情報収集、事案対処に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証する。	・生徒がいじめ問題をはじめ、人権についても主体的に考え、自身にも関わる問題と捉えられるようにする。 ・学校いじめ防止対策組織の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを行う。 ・生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。 ・職員自らも生徒の観察に注力する。
勤務管理の適正化	・業務の適正化及び平準化を図り、教職員の健康に配慮した体制の維持に努める。	・学級減に伴う教員定数の減少に合わせ、校務分掌の整理統合を図る。 ・業務改善のアイデアを整理し、可能なものから実施する。 ・在校時間等の状況記録の集計結果等を衛生委員会で確認し、１か月間の時間外労働が８０時間を超える教職員に対して、その都度面接指導の希望の有無について確認を行う。	・各校務分掌の業務内容を整理し、統合可能な分掌を検討し、来年度実施に向け準備を進める。 ・業務改善について、できるだけ速やかに実施できるように意識をする。 ・教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努め、年５日以上年次休暇が確実に取得できるように配慮する。 ・時間外勤務の教職員に、勤務時間の割振り変更を促す。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・ＩＣＴ活用等による、生徒が主体的に取り組むための授業改善 ・基本的生活習慣の確立と通学マナーの向上 ・地域に根差した学校にするための具体的取組	